



農村プロデューサー
養成講座

— 地域に消えない火を灯せ —

令和4年4月12日

主催：農林水産省農村振興局

目次

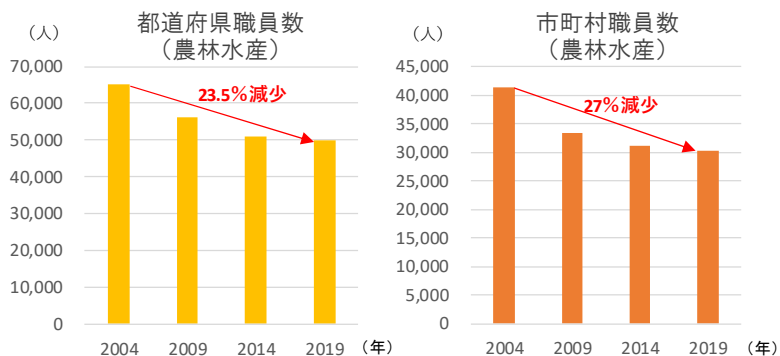
『農村プロデューサー』養成講座とは？	1
『農村プロデューサー』養成講座 カリキュラムの概要	2
新しい研修スタイル及び実施スケジュール（予定）	3
『農村プロデューサー』養成講座 講演者・講師の紹介	4
『農村プロデューサー』養成講座 講演者及び講師からのメッセージ	5
入門コース オンライン講座（ライブ配信）	6
実践コース（1）オンライン講演（ライブ配信）	7
実践コース（1）オンライン講演（ライブ配信）実施内容	8
実践コース（2）実例を基にした模擬演習等（対面講義）	9
実践コース（2）実例を基にした模擬演習等（対面講義）実施内容	10
実践コース（3）研修生自らの実践活動（オンラインゼミ＋実践）	11
実践コース（3）研修生自らの実践活動（オンラインゼミ＋実践）実施内容	12

『農村プロデューサー』養成講座とは？

- 『農村プロデューサー』とは、
“地域への愛着と共感を持ち、地域住民の思いを汲み取りながら、地域の将来像やそこで暮らす人々の希望の実現に向けてサポートする人材”のこと。

『農村プロデューサー』養成講座を開講する背景

都道府県・市町村の職員が減少する中で、
地域に寄り添う人材の必要性が増大。



※ 一般行政職員数も15年間で10%以上減少。

(出典) 総務省「地方公共団体定員管理調査結果」から作成。(一部事務管理組合の職員を除いている)

- 地域づくりに決まった答えはありません。
- だからこそ、地域に寄り添ってサポートする人材が今、全国各地で必要なのです。
- 本講座は、一方通行的な講義による知識の習得よりも、演習や実践活動による現場力アップを重視します。
- 本講座の修了生(「農村プロデューサー」)がネットワークでつながり、支え合っている環境を整えることで、全国各地の人材同士の連携も深めていきます。



(イメージ) 地域住民と農村プロデューサー

講座の種類

以下の2種類のコースで構成。

① 入門コース

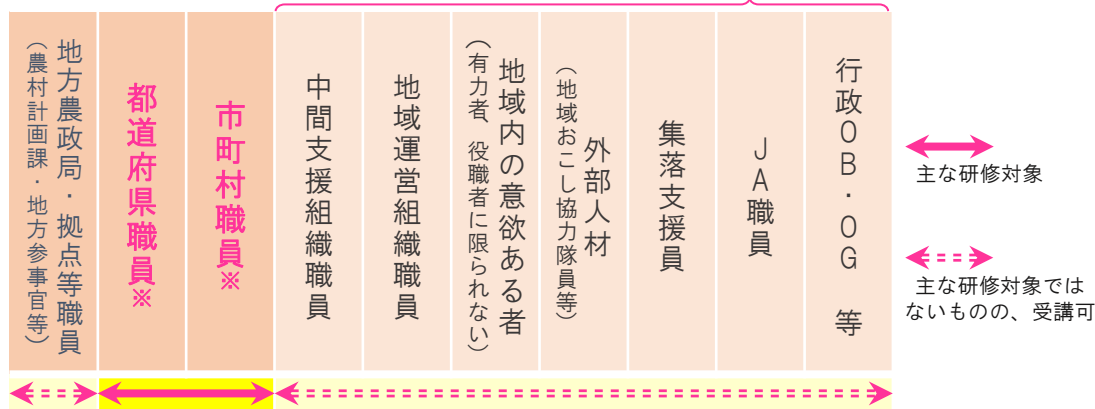
地域づくりに関心のある者が幅広く参加可能なオンライン講演。

② 実践コース

地方自治体職員及び地域づくりに意欲がある者等を対象として、実例を基にした模擬演習や地元での実践を通じ、地域づくりをプロデュースする者を養成。

(参考) 実践コースの受講対象者

地域づくりに意欲がある者



※ 地方自治体職員として、農林水産、社会教育、福祉、地域共生社会、企画等の部局の職員、地域担当職員、農林水産普及指導員(都道府県)、農業委員・農地利用最適化推進委員(市町村)等を想定

『農村プロデューサー』養成講座 カリキュラムの概要

- 「入門コース」「実践コース」の2種類のコースで構成。さらに、研修修了生（実践コース）と講師陣をつなぐネットワークを構築。
- オンライン形式（主にライブ配信による講義や演習）も併用し、実例を基にした模擬演習や研修生自らの実践活動による現場力アップを重視。

『農村プロデューサー』養成講座 ～地域に消えない火を灯せ～

1. 研修の目標

- ・ 農山漁村地域における、創意工夫にあふれる地域づくりの取組内容を学ぶことにより、地域づくりの実践に向けたプロセスを習得。

2. 主な内容

オンライン講演（ライブ配信）

- ・ 活動内容や成果、動機等を通じ、地域づくりのワクワク感を体感。

『農村プロデューサー』入門コース（定員なし）

- ・ 地域づくりに造詣の深い者等を講演者（講演者は毎回交代）とした、オンライン上の講演。ライブ講演中にチャットで双方向のやりとりが可能。
- ・ 月3回、90分程度（全6回）。

3. 受講対象者

- ・ 地域づくりに関心のある者が幅広く参加可能。
- ・ 実践コースの受講希望者は、入門コースを受講することが望ましい。

1. 研修の目標

- ・ 地域への愛着と共感を持ち、地域住民の思いを汲み取りながら、地域の将来像やそこで暮らす人々の希望の実現に向けてサポートできる人材（農村プロデューサー）を養成。

2. 主な内容

(1) オンライン講義（ライブ配信）

- ・ 地域及び地域住民に関する現状把握や分析手法、実践に向けたロードマッピング等の基礎を学ぶ。
- ・ 地域づくりに造詣の深い者を講師とした、オンライン上の講義。ライブ講義中にチャットで双方向のやりとりが可能。
- ・ 月4回、90分程度（全4回）。

(2) 対面講義（実例を基にした模擬演習等）

- ・ 実例を基にした模擬演習等により、(1)で習得した手法を現場で実践するためのトレーニングを実施。研修生同士の連携も推進。
- ・ 2泊3日、8地方会場で開催。

(3) 研修生自らの実践活動（オンラインゼミ+実践）

- ・ (2)で学んだ内容を基に、研修生（グループも可）が講師と相談の上活動のテーマを決定し、地元で実践。
- ・ 農村プロデューサーに求められるポイントを、現場レベルで企画・実践し、その成果を題材として、実施前後のオンラインゼミで解説。

『農村プロデューサー』実践コース（100人程度）

- ・ 成功につながるポイント、現場が動き出すポイントなどを探り学ぶ。
- ・ 月1回、90分程度（全2回）。

3. 受講対象者

- ・ 地方自治体職員※及び地域づくりに意欲がある者等を想定。

※ 地方自治体職員として、農林水産、社会教育、福祉、地域共生社会、企画等の部局の職員、地域担当職員、農林水産普及指導員（都道府県）、農業委員・農地利用最適化推進委員（市町村）等を想定

ネットワークへの参画希望者



※ 詳細については、別添「カリキュラム」を参照。
 ※ 受講人数・開催回数は、令和4年度に予定しているもの。

新しい研修スタイル及び実施スケジュール（予定）

- 実践コースでは、「型にはまった地域づくり」を目指すのではなく、「その地域に合致した地域づくり」を考えるスタイルを目指していく。
- 「オンライン講義」「実例を基にした模擬演習」「研修生自らの実践活動」の3ステップで、個々の研修生の現場力アップをフォロー。

新しい研修スタイル（実践までを段階的にフォロー）

これまでの研修スタイル



研修で学ぶ内容は有意義だが…



すぐに地域で実践するにはハードルが高い場合も

研修から実践までの段階の段差が高すぎる可能性。

新しい研修スタイル



実例を基にした模擬演習によりオンライン講義で学んだことを実践に移すためにトレーニング



講師のフォローを受けながら研修生自ら実践活動にチャレンジ
研修修了後の活動を支えるネットワークも構築



現場力を段階的に身に付けるためのきめ細やかな段階を用意！！

実施スケジュール（予定）

令和4年度の実施スケジュール（予定）は下記のとおり。

令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
入門コース (オンライン講演)			全6回										・実践コースの募集開始は、5月中旬頃の予定。
実践コース(1) (オンライン講義)				全4回									・実践コース(2)は、8会場(札幌、仙台、さいたま、金沢、名古屋、京都、岡山、熊本)で開催を予定。受講生は申込みの際に参加会場を選択。
実践コース(2) (実例を基にした模擬演習)					3日間の対面講義1回 ※8会場から選択								・オンラインゼミは、実践コース(2)の会場別に実施
実践コース(3) (研修生自らの実践活動)						オンラインゼミ 実践前1回		研修生 地元で実践		オンラインゼミ 実践後1回			・感染症拡大等により、スケジュールが変更となる可能性がある。
研修修了生等の ネットワーク													ネットワーク構築へ

『農村プロデューサー』養成講座 講演者・講師の紹介

- 令和4年度は、「**入門コース**」（参加自由）を5月から、「**実践コース**」（定員制）を7月から開講。
- 「**実践コース**」は、ホームページ上にある実践コース受講申込書でダイレクトに応募可能。（募集期間5月中旬から6月中旬を予定）

入門コース 講演者（オンライン講演）

6つの分野別に、講演者それぞれから地域づくりに関する取組内容を学ぶ。

第1回 【総論分野】

令和4年5月18日（水）19:00～



東京大学助教授等を経て、2006年より現職。専門は、農村政策論、地域ガバナンス論。国内外の農山村地域を歩き、集落レベルから国の政策レベルまでの実態を研究し、政策提言を行っている。
著書：『農山村は消滅しない』（岩波新書）、『農村政策の変貌』（農文協）など多数。

明治大学農学部教授 小田切 徳美 氏

第2回 【イノベーション分野】

令和4年5月27日（金）19:00～



ビジネスプロデューサー／クリエイティブディレクター。静岡県湖西市出身。東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻卒。国内最大級の地方創生イノベーションプラットフォーム「INSPIRE」を立ち上げ、超絶まちづくりの集合知を社会にシェアしている。
著書：『最強の縄文型ビジネス』（日本経済新聞出版社）

一般社団法人INSPIRE 代表理事/
BBT大学・BBT大学大学院MBA 教授 谷中 修吾 氏

第3回 【関係人口分野】

令和4年6月6日（月）19:00～



イギリス生まれ。1981年来日。NHK番組「英語でしゃべらナイト」「英語であそぼ」などで言語コンサルタントを務める。農林水産省主催の「美の里づくりコンクール」審査員として日本の農村の魅力とともに、地域が抱える課題に理解を深める。山形県飯豊町中津川地区や福島県郡山市逢瀬町地区のコンサルタントを務め、関係人口戦略づくりなどで地方創生をサポートする取組を行う。

有限会社フルフードエンタープライズCEO
アダム・フルフォード 氏

第4回 【生産・流通技術開発分野】

令和4年6月16日（木）19:00～



東京大学農学部を卒業後、英国クランフィールド大学で修士号を取得。NASAの植物工場プロジェクトへの参画等を経て、2009年、株式会社エムスクエア・ラボを創業。2017年に立ち上げたやさいバス事業ではACC2019クリエイティブイノベーション部門にて総務大臣賞グランプリ受賞。デジタル田園都市国家構想実現会議委員。

株式会社エムスクエア・ラボ代表取締役社長/
やさいバス株式会社代表取締役 加藤 百合子 氏

第5回 【地域診断&未来計画分野】

令和4年6月27日（月）19:00～



1959年、島根県益田市生まれ。一橋大学経済学部卒業。博士（マネジメント）。島根県中山間地域研究センター等を経て2017年より現職。総務省地域力創造アドバイザー他、国・県委員多数。専門は、地域診断（人口・経済）、地域づくり支援、中山間地域政策、未来社会論、地域計画。
著書：『田園回帰1%戦略』（農文協）、『日本はどこで間違えたのか』（河出書房新社）など多数。

一般社団法人持続的な地域社会総合研究所
所長 藤山 浩 氏

第6回 【都市農村交流分野】

令和4年7月6日（水）19:00～



地域の短期的・季節的な人手不足で困る収穫時の農家等と、農業や地域に興味がある地域外の若者をマッチングするwebプラットフォーム「おてつたび（お手伝い×旅）」を運営。お手伝いを通じて自分にとって好きで堪らない特別な地域が出来る、そんな“新しい旅”の形を提案している。

株式会社おてつたび代表取締役 永岡 里菜 氏

実践コース 講師（オンライン講義+対面講義）

講師は3名体制。事例を基にした模擬演習や地元での実践を通じ、現場力をアップする。



2021年3月に山形県庁を定年退職。在職中は、一貫して農村の生産基盤と生活環境の整備に取り組む。事業の計画や実施に合わせ、地域の真の課題の見極めと、解決に向けた合意形成手法や話し合いと解決の道を探ってきた。県内外1,000以上の事例と向き合い、地域に誇りを取り戻すための「地域づくり」を展開している。

農村着火型プランナー 高橋 信博 氏



2018年に愛媛県庁退職。在職中は、協働自治による行革、地域包括ケア・虐待防止、地域担当職員として地域に深くかかわる。2014年4月から3年間、地域活性化センター派遣となり、全国の地域人材育成と地域づくり伴走支援に従事。現在は、フリーランスで課題解決思考から価値創造思考への転換やあいだをつなぐ人材育成を行っている。

一般財団法人 地域活性化センターフェロー
人材育成プロデューサー 前神 有里 氏



岩手大学農学部修了後、札幌で民間コンサルタント会社に入社し、公共交通に関する調査や計画策定に携わる。2005年博士（農学）取得。岩手県花巻市を拠点に、地域運営組織の立ち上げ支援や地域交通（デマンドタクシーやボランティア送迎等）の導入支援に取り組んでいる。

特定非営利活動法人いわて地域づくり支援センター
常務理事 若菜 千穂 氏

※ 講演者及び講師は、変更の可能性がある。

『農村プロデューサー』養成講座 講演者及び講師からのメッセージ

【入門コース】

研修科目	講演者	講演者からのメッセージ
入門コース 第1回 【総論分野】	明治大学農学部 教授 小田切 徳美 氏	「地域づくり」とは何でしょうか。「つくる」とは、所得や雇用はもちろん、地域のコミュニティやそれを支える人材が生み出される環境づくりに対する言葉でもあります。そうすると、地域づくりとは、「しごと」「くらし」「活力」のそれぞれのパーツと同時に、新しい地域の「しくみをつくる（造る）」ことを意味しています。当然、その課題は重たく、また息の長い取り組みが必要になります。しかし、そこでたじろぐ必要はありません。なぜならば、既に全国各地でそうした取り組みがあり、その内容とプロセスを「解剖」することにより、だれでも手がかりやコツを学び、実践に向けて身につけることができるからです。 本講義では、先発するそうした地域づくりの取り組みを紹介しつつ、地域づくりの本質と勘所をわかりやすく論じてみたいと思います。
入門コース 第2回 【イノベーション分野】	一般社団法人INSPIRE 代表理事/ BBT大学・BBT大学大学院MBA 教授 谷中 修吾 氏	農村発イノベーションには、地域の社会的課題を明らかにしてロジカルに解決策を導き出す「問題解決型」だけではなく、突き抜けたアイデアから出発して農村の社会的課題を紐づける「価値創造型」のアプローチを組み合わせることが重要です。0から1を生み出すイノベーターは、農村でどのように新しい事業を生み出しているのでしょうか。 国内最大級の地方創生イノベータープラットフォーム「INSPIRE（インスパイア）」において、価値創造型で地域活性化に取り組むイノベーターたちの集合知を体系化した「超絶まちづくりのビジネスデザイン技法」を伝授します。
入門コース 第3回 【関係人口分野】	有限会社 フルフォードエンタープライズ CEO アダム・フルフォード 氏	イギリス南西部の町で農産品を販売する会社を営む家に生まれました。1981年来日して、かつて農林水産省に勤めていた人の娘と1987年に結婚。娘3人が日本人である私は、国籍は英国でありながら心の半分は日本に属しています。日本文化の影響を受け、私は年を取るにつれて先祖の存在を身近に感じるようになってきました。大地やコミュニティを大事にしていた先祖をがっかりさせてはいけません。この100年の間にイギリスが失ってしまった伝統的な価値観が日本に残っているだけでなく、それは日本の国民性にも影響を与えていると思います。「良き先祖」になるために何が出来るか。自我を優先する「遠慮のない」欧米文化と相手の立場を尊重し「相手を想う」日本文化のパワーを合わせて、地方再生に駆使できないだろうか。皆様と一緒に模索していきたいと思っています。
入門コース 第4回 【生産・流通技術開発分野】	株式会社エムスクエア・ラボ 代表取締役社長/ やさいバス株式会社 代表取締役 加藤 百合子 氏	当社は農業×ANY=HAPPYの方程式のもと、農業×サービスデザインでやさいバスによる流通改革事業や、農業×ロボット・ITで生産性向上の取り組みを進めています。農業は社会基盤産業ですが、戦後、産地と消費地が距離も気持も離れたことにより、命に欠かせない食への関心が薄れ、何かと課題を大きくしているのではないかと考えています。農業×福祉、農業×福利厚生、農業×教育など各地で行われているように、農業をより社会につなぎ込むことで地域課題は解決します。
入門コース 第5回 【地域診断&未来計画分野】	一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山 浩 氏	私たち人間と同じく、地域や自治体においても、しっかりした診断無しでの活動や政策の展開は、大きな間違いを引き起こします。私の講座では、人口、産業、経済、福祉、社会構造から多角的にデータ分析&構造分析を行う実践的な手法を紹介し、地域住民が自分たちの地域の強みと弱みを理解した上で、持続可能な地域社会へと進化するステップを学んでいきます。 また、これから2050年までの30年間は、待ったなしで循環型社会へと地域も地球も転換していく時代です。今までの延長線上にソリューションはありません。地元から世界を創り直す戦略についてもご提示し、みなさんとどんどん議論していきたいと思っています。
入門コース 第6回 【都市農村交流分野】	株式会社おてつたび 代表取締役 永岡 里菜 氏	人手不足やPR不足などで困っている地域の方と、知らない地域へ行きたい若者をマッチングするWebマッチングプラットフォーム『おてつたび』。お手伝いを通して地域の方と深い関係ができ、気づいたら自分にとっての特別な地域（＝地域の関係人口）ができていて、そんな“新しい旅”の形を提案しています。 今回は参加者・受け入れ事業者様の声も紹介しながら『おてつたび』についてお話いたします。皆様にお会いできるのを楽しみにしております！

【実践コース】

研修科目	講師	講師からのメッセージ
実践コース (1)～(3)	農村着火型プランナー 高橋 信博 氏	私は、若い時に「地域づくり」の現場に出会いました。そして30年以上にわたり、この仕事に山形県職員と言う立場で携わることができました。この間、全国1,000余りの地域と関わる中で、「今までいろいろ手を尽くしたが、地域がなかなか動かない」という共通した悩みを聞いてきました。動き出す地域とそうでない地域を比べてみると、地域づくりの事前準備にどれだけ丁寧に取り組んでいるかがポイントでした。この下格えにあたる部分は、他所の人に頼ってもどうしようもない部分で、実際の現場では地域に一番身近な関係者が行うべきものです。 本講座では、現場で試行錯誤しながら、地域づくりに取り組んでいる皆さんに向けて、地域に消えない火を灯し、地域自らがその気になり、実際に動き出すまでの、地域実践型のノウハウを提供します。
実践コース (1)～(3)	一般財団法人 地域活性化センター 人材育成プロデューサー 前神 有里 氏	地域をよくするためにできることを考えると難しいですが、私の好きなことやしていることが地域に役立っているならば、地域づくりはぐっと身近になりますね。目の前の困りごとは解決すべき課題なのか、周りの変化とともに新たな価値を創っていく素材の一つなのか、とらえ方ひとつで未来は変わります。 私たちの暮らしは遠くの誰かとつながっていて、共に在り、共に未来を創っていますが、考え方や価値観は人によって違います。わかりあえなさをスタートに、思い込みを解きほぐし、私のあなたの私たちの地域の幸せを考えてみませんか。
実践コース (1)～(3)	特定非営利活動法人 いわて地域づくり支援センター 常務理事 若菜 千穂 氏	東北の農山村地域を対象に住民主体の地域づくりのサポートに取り組んできました。この数年は、新しい活動に取り組む以上に、既存の自治会や町内会のあり方を見つめなおす必要性も高まってきているように思います。地域運営組織形成の支援も行っていますが、住民自治のあり方は地域それぞれで、それによって地域運営のあり方も異なります。 今の住民自治のあり様、自分たちの人柄や特性、これからのあり方を考え、そして一步一步進んでいくには、何よりもいるんな人同士の対話がとても大切です。今回の研修で、多くの人と多くの対話を重ね、私も共に学ぶことを楽しみにしています。

※令和4年度は、高橋信博氏は全会場、前神有里氏はさいたま、名古屋、京都、札幌、金沢会場、若菜千穂氏は岡山、仙台、熊本会場を担当予定。

入門コース オンライン講演(ライブ配信)

(講演のねらい) 農山漁村地域における、創意工夫にあふれる地域づくりの取組内容を学ぶことにより、地域づくりの実践に向けたプロセスを習得する。

(受講定員) 定員は設けない(地域づくりに関心のある者が幅広く参加可能)

(研修実施方法) オンライン

	19:00	19:30	20:00	20:30
2022年 5/18 (水)	60分(19:00~20:00) ＜オンライン講演＞ 第1回【総論分野】 明治大学農学部教授 小田切 徳美 氏		30分(20:00~20:30) チャットによる 質疑応答等	
5/27 (金)	60分(19:00~20:00) ＜オンライン講演＞ 第2回【イノベーション分野】 一般社団法人INSPIRE 代表理事/BBT大学・BBT大学大学院MBA 教授 谷中 修吾 氏		30分(20:00~20:30) チャットによる 質疑応答等	
6/6 (月)	60分(19:00~20:00) ＜オンライン講演＞ 第3回【関係人口分野】 フルフォードエンタープライズCEO アダム・フルフォード 氏		30分(20:00~20:30) チャットによる 質疑応答等	
6/16 (木)	60分(19:00~20:00) ＜オンライン講演＞ 第4回【生産・流通技術開発分野】 株式会社エムスクエア・ラボ代表取締役社長/やさいバス株式会社代表取締役 加藤 百合子 氏		30分(20:00~20:30) チャットによる 質疑応答等	
6/27 (月)	60分(19:00~20:00) ＜オンライン講演＞ 第5回【地域診断&未来計画分野】 一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山 浩 氏		30分(20:00~20:30) チャットによる 質疑応答等	
7/6 (水)	60分(19:00~20:00) ＜オンライン講演＞ 第6回【都市農村交流分野】 株式会社おてつたび代表取締役 永岡 里菜 氏		30分(20:00~20:30) チャットによる 質疑応答等	
	19:00	19:30	20:00	20:30

※ 全6回程度。

※ 講演者は毎回交代。

※ 講演内容や途中休憩などにより、時間を変更する場合があります。

実践コース(1)オンライン講義(ライブ配信)

(講義のねらい) 地域及び地域住民に関する現状把握や分析手法、実践に向けたロードマッピング等の基礎を学ぶことを目的とする。

(受講定員) 100人程度(研修生全員)

(研修実施方法) オンライン

		10:00	10:30	11:00	11:30	
2022年 7/4 (月)	15分	50分			10分	15分
	1 開講式・オリエンテーション (農水省) 講師の自己紹介、研修内容・ 目的等の説明	2 地域の実情について 社会情勢の変化を踏まえた地域の実情			3 地域づくりに関する 府省横断の連携 施策等	チェックアウト (ブレイクアウト)
7/8 (金)	15分	55分			20分	
	チェックイン (ブレイクアウト)	4 農村プロデューサーの役割①・② 動機づけの手法 地域の現状把握・分析手法			チェックアウト (ブレイクアウト)	
7/11 (月)	15分	55分			20分	
	チェックイン (ブレイクアウト)	5 農村プロデューサーの役割③・④ 実践(行動)計画づくり 実践活動への移行			チェックアウト (ブレイクアウト)	
7/15 (金)	15分	55分			15分	5分
	チェックイン (ブレイクアウト)	6 地域づくりに関するクエスチョン・タイム 質疑応答			チェックアウト (ブレイクアウト)	対面講義 日程連絡 等
		10:00	10:30	11:00	11:30	

※ 6の質問は、事前受付も実施。

※ 講演内容や途中休憩などにより、時間を変更する場合がある。

※ 講演内容は、一部変更の可能性がある。

実践コース（１）オンライン講義（ライブ配信） 実施内容

	研修科目	ねらいと内容	形式	講師等
1	開講式・オリエンテーション	実践コースの実施に当たり、講師の自己紹介、研修内容・目的等の説明を行う。	オンライン講義 15分	山形県農村づくりプロデューサー 高橋 信博 氏 (一財)地域活性化センターフェロー 前神 有里 氏 NPO法人いわて地域づくり支援センター 若菜 千穂 氏
2	地域の実情について	以下についてオンライン講義を行う。 ・ 社会情勢の変化やこれに合わせた農村施策の変化により、農村の在り方がこれまでよりも多様かつ複雑となっており、地域が抱える課題も農に関わるものばかりではなく、また地域内のみで解決しないことも多い。 実践コースの導入として、これら地域の実情について考える。	オンライン講義 50分	高橋 信博 氏 前神 有里 氏 若菜 千穂 氏
3	地域づくりに関する府省横断の連携施策等	地域づくりに関する関連施策について紹介する。	オンライン講義 10分	農林水産省
4	農村プロデューサーの役割 ①・② 動機づけの手法 地域の現状把握・分析手法	以下の点の基礎的部分に重点を置いたオンライン講義を行う。 (動機づけの手法) ・ 地域への入り方（地域の誰に対して、どうアプローチすればよいのか） ・ 地域に対する動機づけ（地域からやりたいという意思「声」を引き出す、自らそう言いたくなる環境づくりのポイント「仕掛け」と大きさ） ・ 誰がしたいか？させたいか？の明確化（1プロジェクトに対し、それは誰がやりたくて始めるのか、させたい誰がいるのか、何を目的に取り進むのか、やっとうなるのかなどを明確にする重要性） ・ 計画書の重要性（地域づくりに求められる、今後の構想や実現プログラムをまとめた「実践『行動』計画書」の必要性と、話し合いによる計画書づくりと完成するまでのプロセス） (地域の現状把握・分析手法) ・ 地域の現状把握（対象地域や、周辺地域の現状を分析・診断する「括りの設定につながる」手順と手法） ・ 括りの設定（将来的に継続した活動の展開が期待できる範囲、いわゆる括りの検討と、その設定の手順と手法） ・ 計画策定に関わる組織の立上げ（将来の実践活動への移行を見据え、その担い手となり得る可能性のある、計画策定に関わる地元と市町村のプロジェクトチーム・ワーキンググループの必要性や、立上げの手順）	オンライン講義 55分	高橋 信博 氏 前神 有里 氏 若菜 千穂 氏
5	農村プロデューサーの役割 ③・④ 実践（行動）計画づくり 実践活動への移行	以下の点の基礎的部分に重点を置いたオンライン講義を行う。 (実践（行動）計画づくり) ・ あるべき姿の明確化（括りを構成する地域ごとの5年後・10年後のあるべき姿と、括り全体のあるべき姿を明らかにする視点や作業手順。また、括り全体が向かうべき姿を実現するための計画づくりの手順と手法） ・ 計画づくりに向けたテーマ設定（計画策定チームによる計画づくりに向けたテーマ設定の手順） ・ 実効性の高い「進行プログラム」作成（地域の話合いによって、いつ・誰が・何のために・何を・どうする・そしてどうなるまでを見てわかる形、すなわち「行動計画」に仕立てて、地域全体に示し、合意形成を図るまでの手順と手法） (実践活動への移行) ・ 自らが動き出したいくなる環境整備（計画書を実践活動に移行していくための、実践活動組織の立上げの必要性や、立上げまでの手順） ・ 実践の主体や役割分担に関する「実践プログラム」作成（実践活動における地域の活動組織と行政の関わり方、役割分担や関わり度の合い） ・ 実践活動の下支え（実践活動を起動し継続した活動にしていくための、事業の選定や紹介・新たな仕組みづくりといった、行政が担うべき下支え的な部分）	オンライン講義 55分	高橋 信博 氏 前神 有里 氏 若菜 千穂 氏
6	地域づくりに関する クエスチョン・タイム	これまでの講義内容に加え、農村地域における地域づくりに関した質疑応答を行う。 質問は、各講義の中で回答できなかった内容について、メール等で事前受付。 講師回答後、全体を通しての質疑応答。	オンライン講義 55分	高橋 信博 氏 前神 有里 氏 若菜 千穂 氏

※ 講演内容は、変更となる場合がある。

実践コース(2)実例を基にした模擬演習等(対面講義)

(講義等のねらい) 実例を基にした模擬演習等により、「オンライン講義」で習得した手法を現場で実践するためのトレーニングを実施。研修生同士の連携も推進。

(受講定員) 1地域10~15人程度(8地域の開催)。

さいたま:7/25(月)-27(水) 岡山:8/8(月)-10(水) 名古屋:8/22(月)-24(水) 仙台:9/5(月)-7(水)

京都:9/14(水)-16(金) 熊本:9/26(月)-28(水) 札幌:10/12(水)-14(金) 金沢:10/26(水)-28(金)

(研修実施場所) 各市内の会議室

	8:30	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	
2022年							60分(14:00~15:00)		90分(15:15~16:45)		60分(17:00~18:00)	
1日目						受付	オリエンテーション	<講義> 1 地域をめぐる事情	休憩	<特別講演※> 2 農村プロデューサーを志す方へのメッセージ	休憩	<講義> 3 オンライン講義の振り返り
2日目	90分(8:45~10:15)	90分(10:30~12:00)		90分(13:00~14:30)		90分(14:45~16:15)	90分(16:30~18:00)					
	<模擬演習> 4 農村プロデューサーの役割① 動機づけの手法 (地域が自ら取り組みたくなる環境づくり)	休憩	<模擬演習> 5 農村プロデューサーの役割② 地域の現状把握・分析手法 (括りの設定と、材料集めの手法)	屋食	<模擬演習> 6 農村プロデューサーの役割③ 実践(行動)計画づくり (住民がどのように計画づくりしていくかの「進行プログラム」作成)	休憩	<模擬演習> 7 農村プロデューサーの役割④ 実践活動への移行 (何年、どのくらいの予算で何を実践して活動するかの「実践プログラム」作成)	休憩	<講義> 8 本日のおさらいと演習に向けての準備等			
3日目	240分(8:45~12:45)											
	<総括> 9 地域づくりプログラムの構築、発表、実例との比較 (適宜、休憩を入れる)					総評／実践に向けて						
	8:30	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	

※ 「(2)実例を基にした模擬演習等(対面講義)」の期間中に、講師が研修生に対し、実践したいこと等をヒアリングし、「(2)実例を基にした模擬演習等(対面講義)」の終了時まで、研修参加者と講師による話し合いで、実践予定の活動内容等を踏まえ、ケーススタディ研修生2名以上を決定する。

※<特別講演>2 農村プロデューサーを志す方へのメッセージは、さいたま、岡山、名古屋、京都、札幌、金沢会場にて行う予定。仙台、熊本会場での講義内容については検討中。

実践コース（２）実例を基にした模擬演習等（対面講義） 実施内容

	研修科目	ねらいと内容	形式	講師等
1	地域をめぐる事情	昨今の農村地域における状況、それに対する現在の（これまでの）施策内容、取組事例などを学ぶ。	講義 60分	地方農政局
2	農村プロデューサーを志す方へのメッセージ等※	農業生産だけではなく、農山村地域の存続と活性化はなぜ国の生命線なのか。日本の歴史的な背景から学び直すとともに、そこから農村プロデューサーに必要な心構えを知る。	講義 90分	一般財団法人 地域活性化センター 理事長 椎川 忍氏 等
3	オンライン講義の振り返り	翌日からの対面研修に向けて、オンライン講義時のおさらいを行う。	講義 60分	高橋 信博氏 前神 有里氏 若菜 千穂氏
4	農村プロデューサーの役割 ① 動機づけの手法 (地域が自ら取り組みたくなる環境づくり)	以下の点に重点を置いた、実例を基にした模擬演習を行う。 ・ 地域への入り方（地域の誰に対して、どうアプローチすればよいのか） ・ 地域に対する動機づけ（地域からやりたいという意味「声」を引き出す、自らそう言いたくなる環境づくりのポイント「仕掛け」と大切さ） ・ 誰がしたいか？させたいか？の明確化（1プロジェクトに対し、それは誰がやりたくて始めるのか、させたい誰がいるのか、何を目的に取り組むのか、やっけてどうなるのかなどを明確にする重要性） ・ 計画書の重要性（地域づくりに求められる、今後の構想や実現プログラムをまとめた「実践『行動』計画書」の必要性と、話し合いによる計画書づくりと完成するまでのプロセス）	模擬演習 90分	
5	農村プロデューサーの役割 ② 地域の現状把握・分析手法 (括りの設定と、材料集めの手法)	以下の点に重点を置いた、実例を基にした模擬演習を行う。 ・ 地域の現状把握（対象地域や材料集め、周辺地域の現状を分析・診断する「括りの設定につながる」手順と手法） ・ 括りの設定（将来的に継続した活動の展開が期待できる範囲、いわゆる括りの検討と、その設定の手順と手法） ・ 計画策定に関わる組織の立上げ（将来の実践活動への移行を見据え、その担い手となり得る可能性のある、計画策定に関わる地元と市町村のプロジェクトチーム・ワーキンググループの必要性や、立上げの手順）	模擬演習 90分	
6	農村プロデューサーの役割 ③ 実践（行動）計画づくり (住民がどのように計画づくりして いくかの「進行プログラム」作成)	以下の点に重点を置いた、実例を基にした模擬演習を行う。 ・ あるべき姿の明確化（括りを構成する地域ごとの5年後・10年後のあるべき姿と、括り全体のあるべき姿を明らかにする視点や作業手順。また、括り全体が向かうべき姿を実現するための計画づくりの手順と手法） ・ 計画づくりに向けたテーマ設定（計画策定チームによる計画づくりに向けたテーマ設定の手順） ・ 実効性の高い「進行プログラム」作成（地域の話合いによって、いつ・誰が・何のために・何を・どうする・そしてどうなるまでを見てわかる形、すなわち「行動計画」に仕立てて、地域全体に示し、合意形成を図るまでの手順と手法）	模擬演習 90分	
7	農村プロデューサーの役割 ④ 実践活動への移行 (何年、どのくらいの予算で何を実践して活動するかの「実践プログラム」作成)	以下の点に重点を置いた、実例を基にした模擬演習を行う。 ・ 自らが動き出したくなる環境整備（計画書を実践活動に移行していくための、実践活動組織の立上げの必要性や、立上げまでの手順） ・ 実践の主体や役割分担に関する「実践プログラム」作成（実践活動における地域の活動組織と行政の関わり方、役割分担や関わり度の合い） ・ 実践活動の下支え（実践活動を起動し継続した活動にしていくための、事業の選定や紹介・新たな仕組みづくりといった、行政が担うべき下支え的な部分）	模擬演習 90分	
8	本日のおさらいと演習に向けての準備等	翌日の演習に向けて必要となる準備等。	講義 60分	
9	地域づくりプログラムの構築、発表、実例との比較	地域への支援の在り方に重点を置いた地域づくりプログラムの模擬演習、成果発表、模擬演習と実事例との比較等を行う。	総括 240分	
10	ケーススタディ研修生の決定	「（２）実例を基にした模擬演習等（対面講義）」の期間中に、講師が研修生に対し、実践したいこと等をヒアリングし、「（２）実例を基にした模擬演習等（対面講義）」の終了時まで、研修参加者と講師による話し合いで、実践予定の活動内容等を踏まえ、ケーススタディ研修生2名以上を決定する。	—	

※ 令和4年度は、高橋信博氏は全会場、前神有里氏はさいたま・名古屋・京都・札幌・金沢会場、若菜千穂氏は岡山・仙台・熊本会場を担当予定。

※ 10は、「（３）研修生自らの実践活動（オンラインゼミ+実践）」の準備として行うものである。

※ 2の椎川忍氏による「農村プロデューサーを志す方へのメッセージ」は、さいたま、岡山、名古屋、京都、札幌、金沢会場にて行う予定。仙台、熊本会場での講義内容については検討中。

実践コース (3)研修生自らの実践活動(オンラインゼミ+実践)

(講義等のねらい) 「(2)実例を基にした模擬演習等(対面講義)」で学んだ内容を基に、研修生(グループも可)が講師と相談の上活動のテーマを決定し、何例かを地元で実践する。農村プロデューサーに求められるポイントを、現場レベルで企画・実践し、その成果を題材として、実施前後のオンラインゼミで解説。成功につながるポイント、現場が動き出すポイントなどを探り学ぶ。

(受講定員) 1地域10~15人程度(8地域の開催)。

(研修実施方法) オンライン及び現地(企画内容や実践結果は、実施前後にオンラインゼミで報告し、講師及び他の研修生からアドバイス等を受ける)。

	0:00		0:30		1:00		1:30	
2022年		90分(0:00~1:30)						
1回目 (実践前)		<オンラインゼミ> 1 テーマ設定・実践プログラムづくり 事前に講師と相談の上作成したテーマと実践プログラムについて参加者全員でブラッシュアップ						
実践日		<実践> 2 現場でプログラムを実践・ドキュメントの作成 実際の現場で実践しそのプロセスを整理・記録						
2回目 (実践後)		90分(0:00~1:30)						
		<オンラインゼミ> 3 成果の共有と検証 実践のプロセスと成果を共有、実践者の説明と参加者による質疑応答でスキルアップ						
	0:00		0:30		1:00		1:30	

※ 日時は講師と研修生が打ち合わせの上決定。

※ 1は、効率的な進行の観点から、企画内容や質問等を、講師と研修生に事前共有。

※ 3は、効率的な進行の観点から、結果や質問等を、講師と研修生に事前共有。

※ 上記終了後、後日、オンラインによる閉講式を研修生全員で開催予定。研修の振り返りを行うとともに、「修了証」を授与。

実践コース（3）研修生自らの実践活動（オンラインゼミ＋実践） 実施内容

	研修科目	ねらいと内容	形式	講師等
1	テーマ設定 実践プログラムづくり	ケーススタディ研修生が、活動計画と具体的実践内容を提示する。講師とゼミに参加する研修生全員で、ケーススタディ研修生の実践プログラムについて議論を重ねてブラッシュアップする。 なお、ケーススタディ研修生以外の研修生も、講師に質問しながら実践プログラムを作成する。	オンライン ゼミ 90分	高橋 信博 氏 前神 有里 氏 若菜 千穂 氏
2	現場でプログラムを実践 ドキュメントの作成	No.1で決定した実践プログラムに沿って、研修生が実践活動に取り組む（職場の同僚等を交えたグループ実践を想定しているが、単独での実践も可）。実践活動中は、ケーススタディ研修生以外の研修生も含め、講師に個別に相談を行うことができる。 研修生全員が各自で実践した活動状況（プロセス等）をドキュメントにまとめる。	実践	
3	成果の共有と検証	研修生全員が、各自の実践活動の状況を報告する。ケーススタディ研修生の報告については、他の研修生と講師を交えて、成功につながるポイントや、現場が動き出すポイントなどを学ぶ。講師は、各研修生に対してアドバイスし、現場におけるプロデュース力を高める。	オンライン ゼミ 90分	

※ ケーススタディ研修生は、「（2）実例を基にした模擬演習等（対面講義）」終了時まで決定しておく。

※ 令和4年度は、高橋信博氏は全会場、前神有里氏はさいたま・名古屋・京都・札幌・金沢会場、若菜千穂氏は岡山・仙台・熊本会場を担当予定。

※ 1は、効率的な進行の観点から、企画内容や質問等を、講師と研修生に事前共有。

※ 3は、効率的な進行の観点から、結果や質問等を、講師と研修生に事前共有。

※ 上記終了後、後日、オンラインによる閉講式を研修生全員で開催予定。研修の振り返りを行うとともに、「修了証」を授与。